

## 2024年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。

本日、名古屋学院大学は、学部生 1,529 名、大学院生 26 名、留学生別科 10 名、合わせて 1,565 名の新しい仲間を迎えることができました。ご列席いただいた皆さまとともに、大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。御来賓の皆さま、本日は、ご多忙のなか、ご臨席いただきありがとうございます。また保護者・ご家族の皆さま、ご参列いただき誠にありがとうございます。ご子息・ご令嬢のご入学に、心よりお祝い申し上げます。

我々、教職員一同は、新入生の皆さんが、本学での 4 年間を通して、21 世紀の社会に貢献できる人材として成長できるよう、全力をあげて支援することをお約束いたします。

新入生の皆さん、入学式はみなさんを歓迎するセレモニーであるとともに、大学時代のスタート地点でもあるわけですから、ここで、今一度「大学で学ぶ」意味を確認しておきたいと思います。皆さんが今この場に座している理由はひとつです。それは、自分を大きく「成長」させるため、つまり、自らの可能性を大きく広げるために今ここにいるのです。まずは、このことをしっかりと心に刻んでおきましょう。

その上で、皆さんのご入学にあたり、ここで二つの話をしたいと思います。

一つ目は、本学の「建学の精神（けんがくのせいしん）」である「敬神愛人（けいしんあいじん）」について、二つ目が「大学での学び」についてです。

一つ目は「建学の精神」です。「建学の精神」という用語は、多くの皆さんにとっては馴染みのないものかもしれませんが、これは、その学校の教育の根底に流れる考えを表した言葉のことを言います。そして、キリスト教主義大学である本学の建学の精神は「敬神愛人」です。「神を敬い、人を愛する」と書きます。今から 137 年前の明治 20 年（1887 年）に本学に繋がる「名古屋英和学校」を建てたアメリカ人宣教師のクライン博士が選ばれた言葉です。「神を敬う」とは、創造主に対する畏敬の念をもつことですが、学びの場という文脈で解釈すれば、神が御造りになった我々人間は、無知な存在であるからこそ、部分的な知識を得たといつて傲慢になるのではなく、さらに謙虚になって物事の真理を学ぶことが大切であるということになります。つまり、教わる者も教える者も共に謙虚に学びなさい、ということです。そして、後半の「人を愛する」とは、隣人愛、つまり他者に対して優しくあること、との意味あいを持ちます。本学のすべての者が、この言葉に向き合いながら、特に、「隣人愛」の持つ意味を正しく理解することで、自分自身を人間としてさらなる高みに押し上げることを、クライン博士は願っておられたのだと私は解釈しています。

21 世紀に入ってから四半世紀が経つ現在、我々の住む世界は様々な問題・課題に直面しています。ChatGPT に代表される生成 AI など、テクノロジーの進展は目まぐるしく、時代は、これまで、人類が経験したことのないスピードで動いています。同時に、20 世紀までの物質的な豊かさ、個人の利益を追いかける時代風潮とは一線を画する流れが社会に表れつつあります。環境破壊による気候変動、ダ

イバーシティとインクルーシブな社会の構築、このような中で、我々は、価値観の組み換えが必要となっている時代に生きているのです。

新しい価値基準の創造が求められている時代において、我々の建学の精神である「敬神愛人」は大きな指針となるものです。それぞれの学部において、現代の世界や社会と、そこに生きる人間を、掘り下げてゆく研究が展開されています。それらの研究が収斂するところが、この「敬神愛人」であると私は考えています。それゆえ、建学の精神「敬神愛人」の持つ意味合いを問い続けるといふ行為が、名古屋学院大学に集う、我々の使命・ミッションであるわけです。字面（じづら）だけの、表面的な理解ではなく、この「敬神愛人」に対する深みある理解を、機会あるごとに、心がけてみてください。それによって、大学での学びが、心が豊かになる学びへとなっていくのです。

次に、二つ目の「大学での学び」というポイントに、話しを移しましょう。

大学は、「学びの場」であります。今までみなさんが経験してきた小学校・中学校、高校とは次元が異なる「学び」の場所であるということからまずは理解してください。例えば、これまでの学校では同じクラスの生徒は同じ時間割で同じ科目を勉強してきました。大学では、同じ学部同じ学科でも、それぞれの学生が自分の関心に沿って学ぶ科目を決めていくので、自ずと時間割は異なってきます。さらに、これまでの勉強では、問題、解き方、解答がすでにそこにあるものをこなし、それによって記憶を強化していく作業、つまり「勉強」でした。しかし、大学は違います。大学では、問題を自ら見つけ、その解法を自ら探し、さらに、得られた答えがどこまで正しいものなのかといった検証まで、すべて自らの責任で行うこととなります。つまり、「研究」です。高校までの「勉強」と大学からの「研究」、この違いをどれだけ早く認識することができるかが、みなさんがホンモノの大学生になれるかどうかの別れ道となります。大学では、世の中のあらゆるものが研究テーマとなりえます。経済の問題、法律の問題、社会や文化に関する問題などから、SDGs、人工知能（AI）、LGBTQ、或いは、ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナの問題に至るまで、あらゆるものが研究の対象となります。研究は、自分の感じたことを表明する感想文でも、調べ学習の結果をまとめるレポートでもありません。研究においては、表面に現れる現象の、その奥に潜む真の問題に迫る必要があります。そのためには、まずもって、「自ら学ぼう」という姿勢が不可欠となってきます。「教えてもらう」という受身的な姿勢では得られるものはありません。後部座席に座っていても、何も学べません。自らが、運転席（ドライバーズシート）に座ることから始まります。

以上、二つの話をしました。「敬神愛人」と「大学での学び」です。大学生活のスタートとなる今日、このふたつについて、しっかり記憶にとどめてもらいたいと思います。

若者の特権は「夢」を語ることです。ぜひ、自分の夢を探し、その実現にむけてチャレンジして下さい。自分を高みに押し上げるその「夢」を目指して頑張ってみてください。

自分の可能性に自らリミッター（制限装置）を設ける必要はありません。先入観や未経験、過去の成績をあきらめる理由にすることはありません。第一歩を踏み出すときには、自信がないのは当然です。そうであるからこそ、若者は夢に取り組むことができるわけです。

自分の夢を見つけるのには時間がかかるかもしれません。さらに、夢はそう簡単に実現するものでもありません。その過程において、失敗を経験する場面も少なからず出てくるでしょう。しかし、失敗は恥ずかしいことでも自分を卑下することでもありません。そこにこそ、「学び」のチャンスがいつ

ばい詰まっているのです。「あの時、やっておけばよかった」という後悔よりも、「やってみて色々なことがわかった、今回の経験を次に繋げていこう」、というポジティブな考え方ができる若者であってほしいと思います。

さあ、みなさん、新しいステージの始まりです。  
キャンパスには、皆さんと共に歩む先輩たちと、皆さんを応援する教職員がいます。  
キャンパスの周りには、歴史・文化にあふれる魅力ある地域があります。  
そして、キャンパスを越えたところには皆さんが活躍する未来が広がっているのです。  
皆さんの可能性は無限大です。過去の失敗や未経験を恐れることなく、自らの「夢」を見つけ、その実現にむけてチャレンジする若者になってください。

みなさんが、本学で過ごされる大学時代が、実り豊かに人生を生きるための、大きな礎となることを願い、入学式の式辞とさせていただきます。

ご入学おめでとうございます！

2024年4月1日  
名古屋学院大学学長  
赤楚 治之